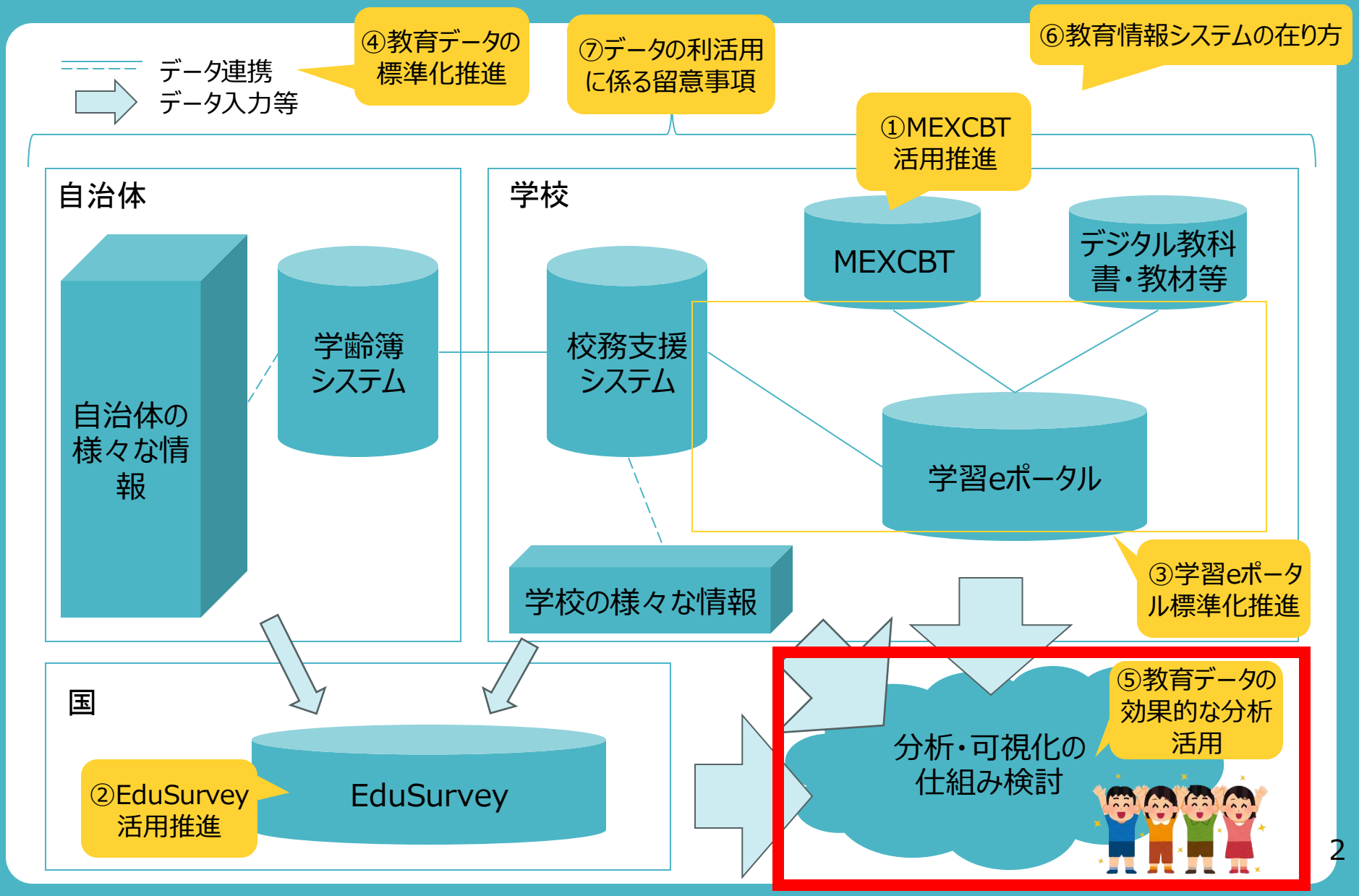
文部科学省

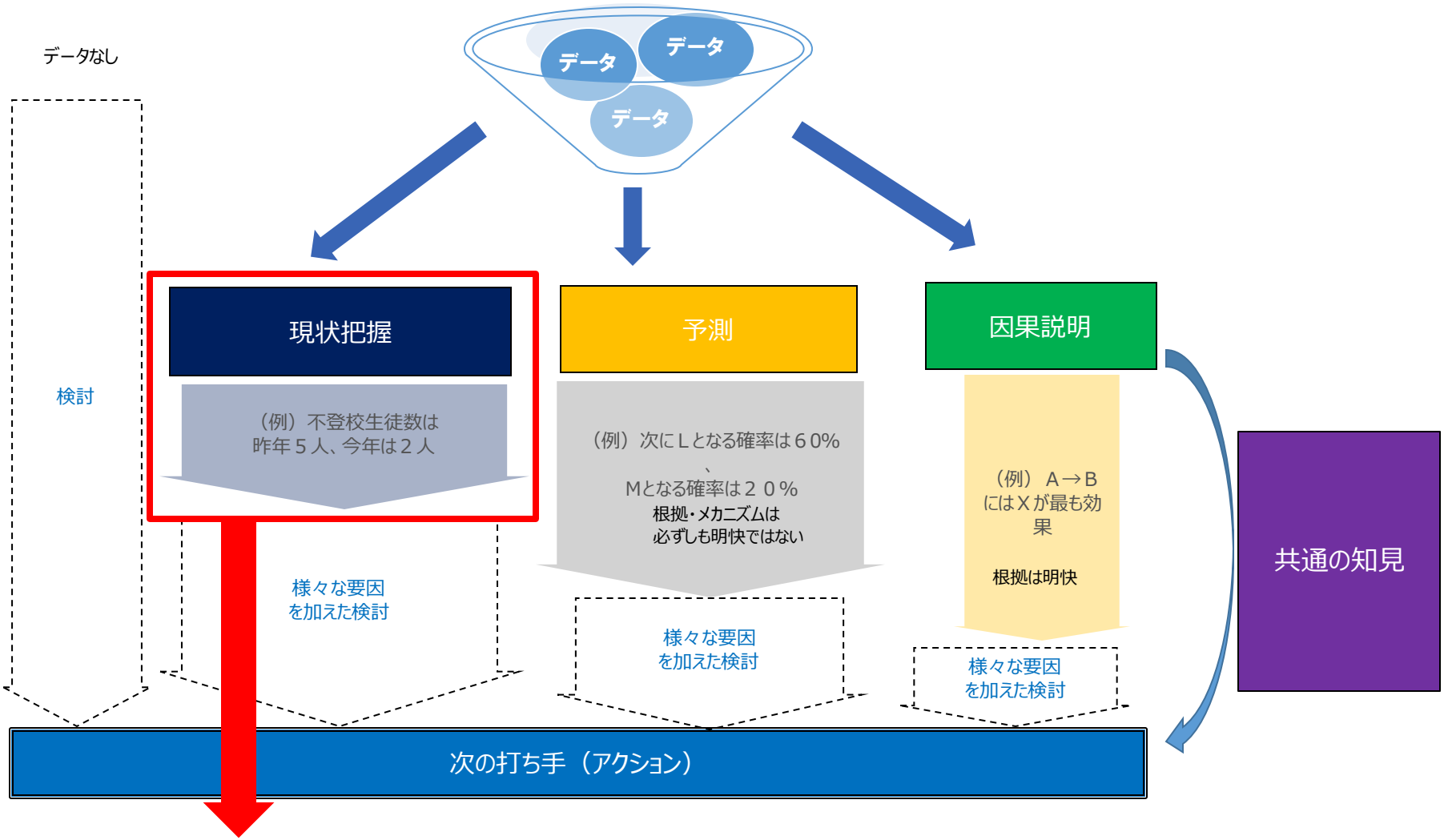
資料2-3

「教育データの効果的な分析活用」に関する取組について

令和5年度の教育データ利活用に関する取組について



教育データの分析からアクションまで



まずは、現状を把握し、要因を探りながら検討を進めることが重要

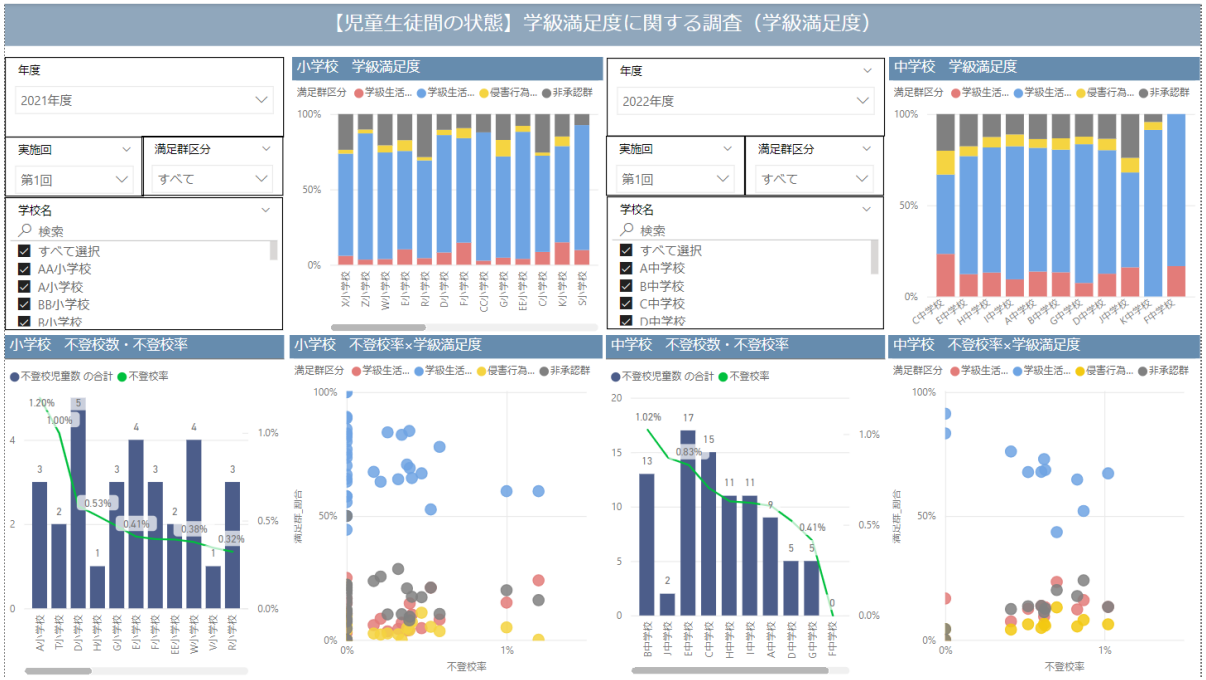
- データの特徴を見える化する　　例：可視化（≒グラフ化）等
- 複数データ間の特徴（関係性）を定量的に見える化する

データ分析の方向性

◆**現状有するデータの利活用を中心に検討し、「データの特徴の見える化」、一部「複数データ間の特徴（関係性）を定量的に見える化」に該当する分析を実施**

- これらのデータ分析は以下の点等において効果を発揮するものと思料
  - ◆各学校の状態等がデータとして表されることで、**関係者の現状認識を一意に揃える**ことができる
  - ◆数値がグラフ化されることで、各数値間の大小関係等について**直感的に把握可能**となる
  - ◆データの特徴や複数データ間の特徴（関係性）が見える化されることで、**政策あるいは施策検討時の判断材料**となる

▶ **データの可視化がされることで、それを元に政策立案が可能**

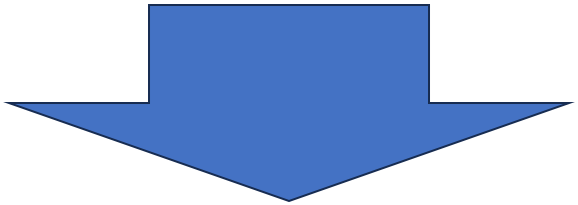


○データ分析事例
（三重県松阪市の作成したダッシュボード）

本事業におけるデータ分析（ダッシュボード）テンプレート共有の目的と意義

- 各自治体で、教育ダッシュボードの作成に向けた取組が進んでいるが、どういったデータを使ってデータ可視化を行うのかに関しては、自治体毎に研究を行っている現状。

▶ **各自治体で膨大な検討の時間が必要になり、非効率**



- 自治体でどういったデータを使って可視化を行うかや、その成果を共有

▶ **各自治体でゼロからデータ分析を試行する必要がなくなり、効率的にデータ分析を進めることが可能**
自治体の知見が集約し、国全体として教育データ利活用の取組が前進

本事業におけるデータ分析(ダッシュボード）テンプレート共有の目的と意義

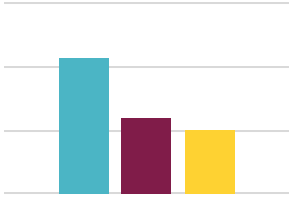
3自治体（三重県松阪市含む）で実施

全国から公募した15自治体において、令和6年1月より分析の取組を開始

①各自治体がデータ分析を実施

②ダッシュボードのテンプレートを共有

③自治体がプラットフォーム上のダッシュボードを参考に、自らダッシュボードを作成し分析

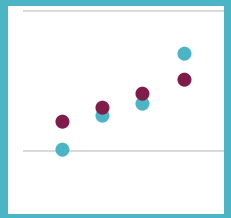


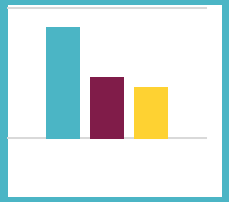
A自治体

B自治体

C自治体

データ分析
成果共有
プラットフォーム





E自治体

D自治体

プラットフォームに載っているA自治体とC自治体の知見を生かして、こんなダッシュボードができたぞ！

④作成したダッシュボードの共有**（好循環）**

今後実施予定

①各自治体がデータ分析を実施 の具体的な流れ

- データ分析の**目的**（ミッション、ビジョン）を検討、決定

- データ分析の目的を踏まえて、どういったデータに相関がありそうか等、**仮説を設定**

- 仮説に合致する**データ項目**を検討、決定

- 必要なデータを収集し、整理・統合

ダッシュボードの作成

データ収集前に、
データ活用の目的・仮説・データ項目を整理することが必要

整理の例

既にデータ分析を実施している３自治体からの声（一部）

【データ分析を通して得られたこと】

- データの相関を明らかにすることで、これまで経験や感覚に頼っていた施策の方向性に正当性や妥当性を持たせることができるようになったとともに、**分析結果に基づいた新たな事業や施策の検討が可能になった**。
- BIツールによって、データをビジュアライゼーションすることで、データが示す傾向や相関性等について、**データ分析に馴染みのない職員においても、視覚的に捉えられるように**なった。

【今後への期待】

- データ分析仮説に基づいて相関が認められた分析結果については、それをより確かなものにするために、関連する他のデータとの相関についても分析していきたい。
- 教育現場におけるデータの利活用については、誰もが容易に傾向や特徴等を把握することができるようにすることが肝要であることから、今回の分析方法を他のデータ分析等にも、柔軟に生かしていけるような**汎用的なフローを確立できるようにしたい**。
- 収集したデータ及びその相関等から得られた分析結果は、可能な限り、児童生徒や学校（今回は学校のみ）に返していくことで、データ収集に対する理解が深まると考えている。したがって分析結果等の提供あるいは公開等の適切な方法について検討していきたい。